

大学入学前に基本的な自己学習能力を身につけよう

—— 大学生の学力不足問題を考える ——

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 大学教育の前提は何ですか。

A (林 明夫。以下略)2 つあります。1 つは、大学で学ぶという「自覚」が本人にあること。もう 1 つは、大学教育に耐えられる「自己学習能力」が身につけていること。この 2 つです。つまり、大学で学ぶという自覚に欠け、また大学入学以前に「自分で勉強する能力」が備わっていないと、大学生になってもそれにふさわしい学力は身につかないと言えます。

本日は、大学教育が前提としている「自己学習能力」について少しお話したいと思います。

Q 大学では、勉強の方法は教えてくれないのですか。

A 大学は、高度な学問の場です。ですから、学生が自分自身で勉強する能力をある程度身につけていることを前提にして、すべての大学の活動が展開されます。

大学としての高度な学問領域における勉強の方法についての指導はあると思いますが、大学生として当然身につけておくべきものと考えられる基本的なことについての指導はないと思います。

Q 大学に入る前に当然身につけておくべき「自己学習能力」には、どのようなものがありますか。

A たくさんあります。

(1) 予習の方法。大学の授業は予習してあることを前提として進められますから、テキストや資料が予め指定されている場合は、自分の力で予習、つまり予め勉強しておくことが求められます。

予習をするときには、分からないことがあれば自分の力で辞書や各種の辞典、本や雑誌、インターネットなどを使って調べることとなりますので、それらを使いこなせることが「自己学習能力」となります。図書館を活用できることも、大切な「自己学習能力」です。

(2) 授業や研究会への参加の方法。欠席、遅刻、早退、おしゃべり、居眠り、携帯電話などは絶対にしないこと。メモを取るとき以外は先生とアイコンタクトをとりながら真剣勝負の気構えで授業に臨むこと。分からないことがあれば、先生の許しを得て質問すること。

(3) 授業や研究会の後は、そこで学んだ内容をその日のうちに自分の「ノートブック」によく整理しておくこと。必要なことは、よく覚え込むこと。「定着のための作業」を怠らないこと。

小テストや学期のテストは、1 ～ 2 か月前までに準備をすべて終えること。1 月に学年末のテストがある場合は、11 月末までにすべての準備を終えておくこと。試験直前は、教科書とノートブックにある内容を一語一句覚え込むこと。今までに出題された 10 年分の問題を自分の力でやってみること。

これらはすべて、大学に入学する前に身につけておくべき「自己学習能力」です。

Q 最後に一言どうぞ。

A 大学生の学力不足問題の大半は、基本的な「自己学習能力」を大学入学前に身につけることで解決されると私は確信します。

高校卒業生の 4 人のうち 3 人が、卒業後も上級の学校で学び続けているのが日本の現実です。高校生は自分のこととしてとらえ、また、高校生を教えるすべての先生方は「自己学習能力の育成」により多くのエネルギーを割いていただきたいと切望します。

以上